

# 第90号



発行日 平成27年10月30日  
発行 名古屋市造形教育研究会広報部  
タイトル 名古屋市立赤星小学校  
安田 拓之  
名造教ホームページアドレス  
<http://www.meizoukyo.gr.jp>

## 『ぐるぐるランプシェード』

名古屋市立高針台中学校

指導者 佐久間 貴子 先生

ぐるぐるぐるぐる風船に糸を巻いてランプシェードを制作する。「どんな糸を使ったら上手に巻けるかな、刺しゅう糸かな、タコ糸かな」「何回巻いたらしっかりと立たせることができるだろう」「ねえ、どうやったらそうなったの？」生徒は周囲の友達と情報交換しながら、よりよい方法を試行錯誤して制作していく。



形成したランプシェードに各自のテーマに合った素材を切ったり貼ったりして組み合わせていくと、「巻いた糸をハサミで切ってみたら、気持ちいい感触!」「モールドは銀河系のイメージ!」など、生徒は自分の制作について笑顔で話し始める。最後に出来上がった作品にライトをつけると、「うわあ、きれい」の声がたくさんあがった。自分や友達の作品に感動する体験を大切にしていきたい。

作品テーマ「銀河」

## 名古屋の造形教育に 若い力を

名古屋市造形教育研究会  
会長 鈴木 三朗



9月19日に名古屋市美術館で行われた教育研究集会の造形教育分科会に参加しました。この集会では、図画工作や美術の活動を通して、子どもたちに造形的な力を身に付けさせたいと考えている12人の若手の先生方が、発表に取り組んでいました。どの実践も、目の前の子どもたちの造形活動における課題を解決するために手だてを工夫し、子どもたちが楽しみながら活動に取り組むことができるものでした。研究協議では、活発な意見交換が行われ、先生方の造形教育に対する熱い思いが伝わってきました。

しかし、このような先生方が、必ずしも名造研や名造教に参加していないのも事実です。造形教育に関心がある若い先生方はたくさんいます。そんな先生方に声を掛け、造形教育の魅力を伝えていくことが、名古屋の造形教育の裾野を広げることに繋がります。

いよいよ、平成31年に名古屋で開催する全国大会が近づいてきました。若い先生方の力を取り込み、裾野を広げながら力を蓄え、名古屋の造形教育の魅力を全国に発信していかなければなりません。

## 子どもたちの未来に 生きる造形活動

名古屋市造形研究会  
委員長 山田 洋揮



本研究会では、昨年度から引き続き「みつめる つながる つくりだす」をテーマに、実践研究に取り組んでいます。

私は、子どもが目を輝かせながらじっくりと「みつめている」姿が大好きです。あるときは、材料を「みつめ」、材料同士を組み合わせることで何かが頭に浮かんだ瞬間であったり、またあるときは、教師の投げ掛けにより、自分の心の中を「みつめ」アイデアスケッチなどに表出できた瞬間であったりします。

図工や美術は、頭の中で考えたことを形や色で表すことができる唯一の教科です。また、小中学校でトップクラスの人気を誇る教科であることは、調査によって明らかになっています。このような人気のある教科を私たちは確かな学力に結び付けなければなりません。将来、図工や美術があったからこそ今があると思えるような、実践を積み重ねていきたいと思っています。

# 夏の造形研修会

## 模擬授業と授業について語る会・造形教育講演会

今年度の夏の造形研修会は、名古屋市立駒方中学校において、「つながる」をキーワードとして、模擬授業と授業について語る会、造形教育講演会を行いました。模擬授業では、名造研役員・部長として活躍されている方々から、魅力ある題材や指導法を提案していただきました。

造形教育講演会には、群馬大学教育学部教授の林耕史先生をお迎えしました。林先生は、長野県の小学校の教員を皮切りに、公立中学校、筑波大学附属小学校を経て、現在、群馬大学教育学部教授として活躍されています。これまでの多くのご経験をもとに、図画工作・美術教育の意義について熱く語られました。多くの方々にご参加いただき、造形教育について見識を深める一日となりました。

### 小学校低学年

## 模擬授業 「いろいろな いろと こんにちは」

授業者：名古屋市立柴田小学校 教諭 辻本哲也先生

【ねらい】 名刺大に切った色画用紙（15色）をつないで、できた色や形の面白さを見付け、つながりを工夫して活動を楽しむようにする。

### 【授業の様子】

#### ① 好きな場所から画用紙を貼り、つなぐ

授業者の「好きな場所からスタートし、どんどん画用紙をのぼしていこう」という投げ掛けに、参加者は机やロープなどから画用紙をのぼしていった。「他の人の色とつなげてもいいですか？」の質問もあり、授業者の「もちろん！つなげる時には『こんにちは』と言いましょう」を合図に、周りの参加者と関わりながら楽しく活動する姿が見られた。

#### ② できた色や形を楽しむ

「いろいろな場所から見よう。どんな形が見えてくる？色のつながりはどう？」との投げ掛けに、参加者は高いところや低いところなど様々な場所から作品を見ていた。授業後には授業者を囲み、活動の感想を述べ、色画用紙からできる色や形の表現を楽しく鑑賞した。



### 小学校高学年

## 模擬授業 「これがお墨付き」

授業者：名古屋市立西城小学校 教諭 沢代宜往先生

【ねらい】 墨や用具の特徴を生かして、自分の表したいことを試すことで、様々な表現のよさに気づき、見方やとらえ方を広げることができるようにする。

### 【授業の様子】

#### ① 「見たことのない生命体」をつくる

墨を使って試した表現を組み合わせ、「どんな生命体ができるかな？プロフィールも考えてみよう」という授業者の投げ掛けに、参加者は組み合わせ方をいろいろと試しながら、「見たことのない生命体」づくりに集中して取り組む様子が見られた。

#### ② クイズを出しながら、ミニ鑑賞会をする

「つくった生命体を友達と見せ合い、生命体に関するクイズを出し合おう」という投げ掛けに「1番お気に入りの部分はどこかな？」「うすい墨の表現が、とんぼの羽を連想させるね」などと参加者同士関わり合った。そ



の後は、じゃんけんトークで次々に相手を見つけ、互いにクイズを出し合い、楽しみながら鑑賞活動に取り組んでいた。

中学校

## 模擬授業 「色と形で自己紹介」

授業者：名古屋市立東築地小学校 教諭 加藤 久仁夫 先生

【ねらい】 自分を見つめ、自分の表したい思いに応じた表現方法を工夫し、材料を組み合わせて抽象的に表現することができるようにする。

また、自己紹介は言葉ではなく、色と形で伝えることで、人によって様々な捉え方があることが実感できるように計画する。

### 【授業の様子】

#### ① 抽象的な色と形から、気持ちや気分について考える

最初に授業者が、様々な色と形を提示し、「それぞれ、どんな感情や気持ちを表しているかな？」と語り掛けた。すると参加者からは「赤は情熱、太陽。青は冷静、知的な感じ」「□はまじめで安定している感じ。○は優しい」などといった答えが返り、色と形からイメージを広げていく様子が見られた。

#### ② 「自分の気持ち」を思い浮かべて、制作する

用意された台紙の上に、色画用紙、小枝、毛糸、紙テープ、色セロハンなどの中から好きな材料を使って思い思いに制作が始まった。

そして、完成した作品をデジタルカメラに記録していった。材料は、あえて台紙に接着しないこととしたため、よりよい表現を目指し、作品を変化させながら記録していく参加者もいた。

#### ③ 作品をモニターに映して、自己紹介をする

まず、モニターに映し出された一人一人の作品だけを見ることで、作者の表したかった気持ちはどんなものだったかを、参加者全員で考えた。次に、作者が作品に込めた思いを話しながら自己紹介をした。

全体でモニターに映った作品を見ながら話し合った後、班ごとに互いの作品を紹介し合う活動を行った。作品に表した思いが、見る人によって十分に伝わったり、少しずつ違った捉え方をされたりすることを実感できた。



造形教育講演会

## 演題 「つながる」から始まる造形教育

講師：群馬大学 教育学部教授 林 耕史 先生

林先生は、「造形的なやりとり」を生かした「協同的な造形活動」の意義という視点からお話しされました。先生が提唱される「協同的な造形活動」とは、分担したり、持ち寄って集合させたりといった単なる共同製作ではなく、「造形的なやりとり」を通して、様々な価値に出会い、新しい価値を創り出していくという相互作用のある活動のことでした。一人で制作していく美術だけでなく「学級」だからこそ可能な「協同的な学び」の大切さを強調されました。また、図工・美術で願う子ども・人間像として「意志決定を表出する姿」「自分で価値や意味を創り出していく姿」「さらに更新していく姿」「様々なこと・ものよさや美しさを感じ取る姿」「共生共創の姿」という5つの姿を挙げられました。



そして、友達、材料、場、環境、社会と「つながる」図工・美術、幼稚園・保育園から高等学校まで「つながる」図工・美術の構築を課題として挙げられました。「図工・美術の時間は絵を描くための時間ではない。表現及び鑑賞の活動を通して、人間を育てる教育の時間であることを再確認する必要がある」という林先生の言葉に、我々の取り組むべきことを明確に示唆していただいたと感じました。

10年後、20年後どんな人に育ってほしいのかというビジョンをもった造形活動を展開しなくてはと意を強くする機会となりました。

# 明日の授業に生かせる実践紹介

平成26年度 名古屋市教育研究員 柴田小 辻本 哲也 先生

## 「表現のよさや美しさを追求する造形活動」

### ◆指導の重点

発想・構想する力を培うために、思いを広げたり、深めたりする学習カードを取り入れた。また、創造的な技能を培うために、表現方法を試すことで、自分らしい表現方法を見付け出すようにした。

### ◆題材について

#### 「ミラクルハウス de ドリームロード」(小5)

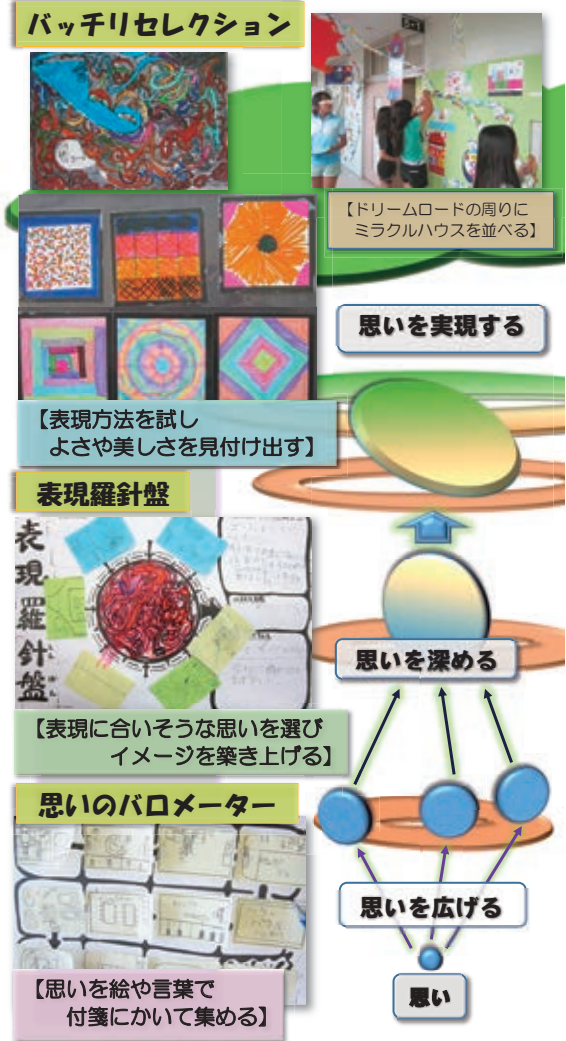
今までに見たことのないミラクルハウスを想像して絵に描き、ドリームロードの周りに友達とできあがったミラクルハウスを並べ、夢の世界をつくる活動である。

### ◆学習の展開

ミラクルハウスへの思いを絵や言葉で付箋に表し、学習カード「思いのバロメーター」に貼る。よいと思った友達のアイデアも付箋にかいて貼り、一つのカードにまとめる。

次に、思いのバロメーターで集めた自分や友達の思いのよさの中から、表現に生かしたいものがかかれた付箋を選び「表現羅針盤」の周りに貼っていく。そして、カードの中央にアイデアスケッチを描く。

製作では、色の組み合わせや重なり、濃淡の美しさ分かる見本をヒントにして、小さな紙に様々な表現方法を試し、自分なりの色見本をつくる。つくった色見本を参考にしながら、思いに合う表現方法を見付け出し「バッチリセクション」に取り組む。廊下をロール紙でドリームロードとし、よさや美しさを追求しながらミラクルハウスを建てる。



## アートインフォメーション

第37回 姉妹・友好都市児童生徒書画展  
第60回 名古屋市児童生徒造形作品展

期間：平成27年  
11月18日(水)～23日(月)  
会場：名古屋市博物館

第60回 名古屋市教員美術展

期間：平成28年  
1月27日(水)～1月31日(日)  
会場：名古屋市博物館

名古屋市造形教育研究会  
ホームページをクリックしてください!

<http://www.meizoukyo.gr.jp/>

名古屋市造形教育研究会(名造教)では、ホームページを、公開しています。  
名造教について、会長挨拶、会員相互の親睦・交流など、名造教の1年を追って、その活動を紹介していく内容になっています。  
また、子どもギャラリーも設置し、児童や生徒の作品を通して、若い先生の思いのこもった指導も紹介しています。ぜひ「名造教」のホームページを定期的にご覧ください!

検索エンジンで「めい ぞう きょう名造教」で検索するとすぐに出ます! ご覧ください!